

1 スフィア基準を踏まえた避難所環境の改善の必要性

避難所は、**生命を守り、個々の事情に応じたストレスのない避難生活の環境を提供**しながら、一日も早い生活復帰を支援することが求められる場であるものの、**大規模震災が発生する度に、避難所の劣悪な環境が取り上げられ**てきました。

首都直下地震が発生すると、**区内に避難する方は、最大約21万人**に上ると見込まれ、**生活環境の確保は喫緊の課題**となっています。

避難所環境の改善に際しては、**被災者が尊厳ある生活を営むための国際基準である「スフィア基準」を参考にしながら、区の特성에応じて計画的に整備**することが求められます。

2 スフィア基準を踏まえた避難所環境の改善の考え方

◆ スフィア基準（主な指標）

1人あたり最低3.5㎡の居住スペース／当初は50人に1基、1週間以降は20人に1基のトイレ（男女比1：3）／50人に1基の入浴設備

◆ 区の特성에応じた対策（避難所避難者を3.2万人と想定）

- 避難対象者：建物全壊等被災者 推定4.7万人
- 内訳：指定避難所(91)体育館1.5万人／補完避難所(23)区管理施設1.7万人／広域避難1.2万人 ⇒ スフィア環境を提供

◆ 移行要領

発災当初は21万人を受け入れ、**1W～2Wで在宅避難に誘導**

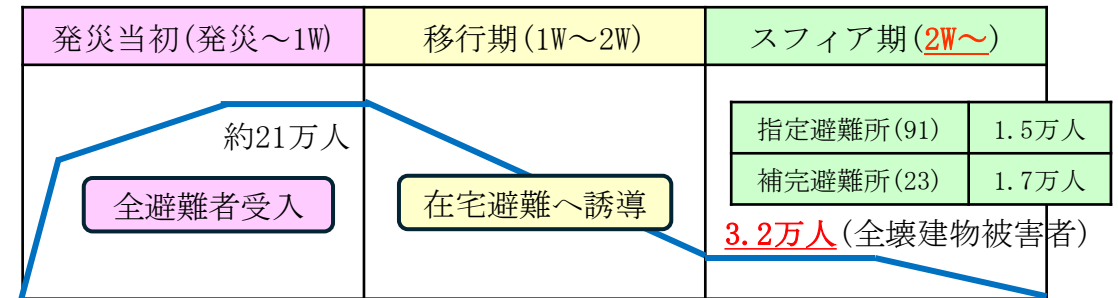
3 避難所環境整備事業

	項目	令和7年度実績	令和8年度予定	令和9年度以降
都補助金事業	災害時トイレ	携帯トイレ (126万回分)	簡易トイレ (1,750基) 凝固剤セット (143万回分)	
	入浴施設	災害用シャワー (5基)	災害用シャワー (10基)	
	簡易ベッド・仕切り		簡易ベッド 仕切り (3,200セット)	簡易ベッド 仕切り (28,800セット)
	ペット受入		ケージ ロック (280セット)	ケージ ロック (2,520セット)
避難所DX	入退所管理(アプリ等)	防災アプリ (実証実験)	総合防災情報システム 防災アプリ (普及、システム保守)	システム保守
	通信環境(PC, Wi-Fi)		PC, モWiFi, 電信料 (PC184台, WiFi93台)	

※上記物品の内、東京都補助金事業の対象物品については、補助金を最大限活用予定

4 移行要領

避難所避難者を3.2万人と想定し、2週間を目途に体制確立



5 避難者減少（在宅避難へ誘導）要領

建物安全性の緊急的な判断	◎発災後、 住民自ら が自宅の安全性を確認 ・建物の安全確認方法（ チェックリスト等 ）の 周知 ・（要件に当てはまらず住み続けることに不安がある場合）区に相談⇒応急危険度判定 ◎平時からの備え（各住戸内の安全性確保） ・ 感震ブレーカー ・家具類転倒防止の促進
備蓄の推進	◎ 必要物資 の備蓄促進、 日常備蓄 の周知 ◎停電を想定した非常用電源等の共有資材の確保

6 在宅避難支援体制の構築

支援体制の整備	支援拠点の配置 （避難所、区管理施設等）、支援内容、多様な主体の 運営体制 等
要配慮者への対応	要配慮者 が必要とする 支援を提供 できる体制

7 部会（試行）実施要領

- ◎ 時期：令和8年度第1回防災会議（11月予定）前
- ◎ 部会長・委員：調整中
- ◎ 議事：在宅避難誘導要領、在宅避難支援体制について
- ◎ 準備・運営：防災危機管理課

東京都避難者生活支援指針（令和7年度策定予定）